

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

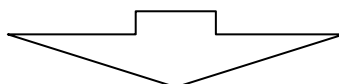
	構・客員研究員		
吉田愛	学習院大学国際研究教育機構・PD 共同研究員	衛星データに見る北魏時代の大同・太原	[東アジア比較研究]
惠多谷雅弘	東海大学情報技術センター・研究員	衛星データによる長安とエジプトの都市プラン比較	[長安と水環境] [長安と宇宙]
李令福	(中国) 陝西師範大学西北研究院・教授	長安の都市水利と灌漑水利	[長安と水環境]
段清波	(中国) 西北大学文化遺産学院・院長／教授	漢代皇帝陵と自然環境	[長安と水環境]
張衛星	(中国) 秦始皇陵兵馬俑博物館・研究員	秦始皇帝陵附近発掘調査	[長安と生産]
黄曉芬	東亜大学人間科学部・教授	衛星データを利用した長安の南北中軸線と直道	[長安と宇宙]
焦南峰	(中国) 陝西省考古研究院・研究員	漢代皇帝陵の発掘調査	[長安と生産]
陳力	阪南大学国際コミュニケーション学部・教授	衛星画像を利用した漢代皇帝陵の調査	[長安と生物]
李文基	(韓国) 慶北大学校師範大学・教授	朝鮮古代都市と自然環境	[東アジア比較研究]
菊地大樹	日本学術振興会・海外特別研究員	始皇帝陵付近出土馬骨の DNA 分析	[長安と生物]
廣川守	泉屋博古館・学芸員	青銅器の成分分析調査	[長安と生産]
井黒忍	大谷大学文学部・准教授	関中平原の水利施設	[長安と水環境]
(共同研究機関等)			

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
長安周辺のソグド人墓の分布	学習院大学学長付国際研究交流オフィス・EF 共同研究員	福島恵	[長安と水環境]

(変更の時期:平成 26 年 4 月 1 日)



法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

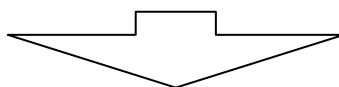
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
学習院大学学長付国際研究交流オフィス・EF 共同研究員	日本学術振興会・特別研究員 RPD	福島恵	[長安と水環境]

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
始皇帝陵付近出土馬骨の DNA 分析	奈良文化財研究所・客員研究員	菊地大樹	[長安と生物]

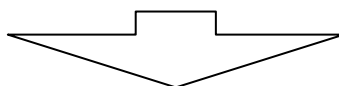
(変更の時期:平成 26 年 4 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
奈良文化財研究所・客員研究員	日本学術振興会・特別研究員 PD	菊地大樹	[長安と生物]

(変更の時期:平成 29 年 4 月 1 日)



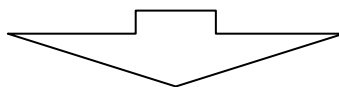
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
日本学術振興会・特別研究員 PD	日本学術振興会・海外特別研究員	菊地大樹	[長安と生物]

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
関中平原の水利施設	早稲田大学高等研究所・助教	井黒 忍	[長安と水環境]

(変更の時期:平成 26 年 4 月 1 日)



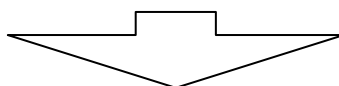
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
早稲田大学高等研究所・助教	大谷大学文学部・准教授	井黒 忍	[長安と水環境]

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
漢代画像石にみる都市生活と環境	学習院大学東洋文化研究所・客員研究員	菅野恵美	[長安と生物]

(変更の時期:平成 27 年 4 月 1 日)



法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

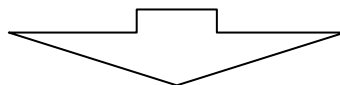
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
学習院大学東洋文化研究所・客員研究員	関東学院大学国際文化学部・准教授	菅野恵美	[長安と生物]

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
衛星データを利用した長安都市水利研究	学習院大学国際研究教育機構・教授	村松弘一	[長安と水環境]

(変更の時期:平成 29 年 4 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
学習院大学国際研究教育機構・教授	学習院大学東洋文化研究所・客員研究員	村松弘一	[長安と水環境]

11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

中国の古都・長安はなぜ千年以上にわたって古代文明の中心であり続けたのか？それは人間が自然環境を過度に利用するのではなく、水環境や動植物と共生するような都市や陵墓を含む首都圏が建設されたためではないか。そのような都市と自然環境の関係性までも含めた都市計画は東アジアの歴史都市へどのような影響をあたえたのか。

本研究では「千年の古都・長安」を対象とした「長安学」を中国側研究者と提唱し、これらの仮説と課題について、長安から朝鮮半島の慶州、日本の平城京へと視野を広げて検討をする。その際、考古・文献の資料群を基礎としつつ、リモートセンシングデータ(衛星データ等)や動物の骨のDNA分析、青銅器の金属成分分析、古代天文復原など先端科学の成果を取り入れることによって、多様で重層的な古代の環境情報を得ることが可能となる。

本プロジェクトでは長安と水環境・生物・生産・宇宙など様々な観点から研究をすすめ、古都・長安の実像を明らかにするとともに、人間・都市・環境の未来を探ることとしたい。

(2) 研究組織

本プロジェクトは前項に記載した研究者 20 名を中心に、文明と自然環境とのかかわりという観点から 4 つのテーマグループに分かれて研究を進めた。各グループにはリーダーを置き、研究代表者の鶴間和幸がこれを統括した。

【テーマグループ① [長安と水環境]】……リーダー:村松弘一

長安の都市水利プランや首都圏の水利灌漑の遺跡を、衛星データを活用して復原。

【テーマグループ② [長安と生物]】……リーダー:菊地大樹

長安および首都圏の動物・植物などの生物と人間の関係を、馬骨のDNA分析を通じて復原。

【テーマグループ③ [長安と生産]】……リーダー:久慈大介

古代文明の青銅器の生産と材料の関係を、銅鏡等の含有成分分析を通じて調査。

【テーマグループ④ [長安と宇宙]】……リーダー:恵多谷雅弘

長安の都市設計と古代の人々の天文観を関係づける。

事務局は学習院大学国際研究教育機構(2014年4月1日に学長付国際研究交流オフィスより改

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

称)内に設置し、事務的な支援を受けた。また、国際研究教育機構と、復旦大学中国歴史地理研究所・陝西師範大学西北歴史環境与経済社会発展研究院・陝西省考古研究院(中国)・慶北大学校師範大学歴史教育科(韓国)との間で国際共同研究連携コンソーシアムを形成し、研究者を定期的に招聘して、若手人材育成を行うと同時に研究機関同士の相互連携を図った。

PD 共同研究員は3名(週3日勤務)で、本プロジェクトに関わる研究のほか、中国・韓国の研究者の招聘、国際研究教育機構で所蔵する銅鏡の整理・調査、シンポジウム・講演会の準備・運営、国内外の現地調査の立案・運営、刊行物の編集・校正等を担当した。学外の研究者との連絡は基本的に PD 共同研究員が行い、総括の鶴間に定期的に報告し、また総括の方針・計画を学外の研究者に伝えることで、共同研究に必要な意思疎通を円滑に行う役割を果たした。

リサーチアシスタントは4名(週1~2日勤務)で、本プロジェクトに関わる研究や現地調査のための資料収集・翻訳、シンポジウム・講演会の会場準備・通訳・翻訳、論文の翻訳、国際研究教育機構で所蔵する銅鏡の整理・調査、刊行物の校正等を担当した。

(3) 研究施設・設備等

東京都豊島区目白1-5-1 学習院大学東1号館6階・7階の学習院大学国際研究教育機構の施設を利用した。特に、601室(24.9㎡)・602室(24㎡)を本プロジェクトの研究拠点とし、客員研究員(2~3名)・PD 共同研究員(3名)・リサーチアシスタント(4名)等が共同で使用した。各メンバーに机とパソコンが用意されており、国際研究教育機構事務室の開室時間に合わせて基本的には9時半~17時の間に研究を行った。

(4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

平成25年度

【現地調査—[長安と水環境]】

東海大学情報技術センターと共同で、古都・長安を含む渭水流域の 秦~漢代の陵墓群(渭陵・義陵・康陵・陽陵ほか) および漢長安城や咸陽宮などの代表的な大型遺跡とその地理的環境についての 現地調査 (*01)をし、同地域における新たな調査方針策定のための現況把握と情報共有を行った。また、現地専門家との意見交換や東海大学情報技術センターと行った SAR(合成開口レーダー: マイクロ波を地表面に向けて斜めに照射し、地表から戻ってきた反射波を受信する能動型センサー)による観測対象物のパラメータ情報の収集を通して、各遺跡の空間的特徴や古代から現在に至る自然環境の変遷を整理した。

【馬骨調査—[長安と生物]】

中国古代馬の系譜および養馬体制解明のための自然科学分析を進めるにあたり、馬の骨の DNA 解析を担当する東京農大学生物資源ゲノム解析センターと共同研究の方向性を定めた。それを踏まえて、本研究に関わる東京農科大学・北里大学などの研究者と今後の研究内容・役割分担について協議し、馬骨のサンプルを提供する中国・陝西省考古研究院と取り交わす共同研究協議書を作成した。これにより、長安周辺で出土した馬骨の DNA 解析が可能となり、当該地域の馬の系譜と飼養の状況に迫る足がかりができた。

【海外若手研究者の招聘—学術交流】

学習院大学国際研究教育機構の客員研究員として、国際共同研究連携コンソーシアムを形成する復旦大学中国歴史地理研究所・陝西師範大学西北歴史環境与経済社会発展研究院(中国)・慶北大学校師範大学歴史教育科(韓国)から、以下の3名を招聘した。

・孫濤(中国・復旦大学中国歴史地理研究所専任講師)

2013年11月1日~11月30日

・潘威(中国・陝西師範大学西北歴史環境与経済社会発展研究院助理研究員)

2013年11月1日~11月30日

・李相勲(韓国・慶北大学校師範大学講師)

2014年2月3日~3月2日

国際シンポジウム(後述、*02)・講演会(*03)を開催し、シンポジウムの講演録は翌年度(2015年2月)に刊行した『学習院大学国際研究教育機構研究年報』第1号に掲載した。

・孫濤「歴史地理研究におけるGISの応用—1855年黄河下流古河道復元の実践—」117-133頁

・潘威「GISと中国史における水文変化の研究」134-142頁

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

【国際シンポジウム開催－[長安と宇宙]】

リモートセンシングに関する研究成果を内外に発信するため、国際シンポジウム「リモートセンシングデータを活用した東アジア古代史研究」(*02)を開催し、招聘研究者の孫涛氏・潘威氏および鶴間・恵多谷による報告と鶴間・恵多谷・村松の三者による鼎談を行った。孫涛氏・潘威氏はリモートセンシング分野の専門家として招聘した研究者であり、上記のシンポジウムにおける学術交流のほか、明治時代以降、日本陸軍の参謀本部の陸地測量部が作成した軍事用地図である「外邦図」に関する情報提供を行い、彼らの資料収集に協力した。

平成 26 年度

【現地調査－[長安と水環境]】

前年度に引き続き、衛星 SAR を用いた探査技術の中国展開の準備として、関中平原に分布する唐代の陵墓群(乾陵・茂陵・靖陵・建陵・橋陵・景陵・光陵・秦陵)とその関連遺跡を、東海大学情報技術センターと共同で調査した。

【馬骨調査－[長安と生物]】

中国社会科学院考古研究所・陝西省考古研究院・殷墟遺跡を訪問し、馬骨の資料調査を行った。

【海外若手研究者の招聘－学術交流】

学習院大学国際研究教育機構の客員研究員として、以下の 3 名を招聘した。

・任小波(中国・復旦大学中国歴史地理研究所専任講師)

2015 年 1 月 5 日～2 月 5 日

・聶順新(中国・陝西師範大学西北歴史環境与経済社会発展研究院助理研究員)

2015 年 1 月 5 日～2 月 5 日

・南廷昊(韓国・慶北大学校師範大学附設高等学校教師)

2015 年 1 月 5 日～1 月 30 日

講演会(*04)を開催し、その報告内容は翌年度(2016 年 2 月)に刊行した『学習院大学国際研究教育機構研究年報』第 2 号に掲載した。

・南廷昊(翻訳:植田喜兵成智)「百済武王の王妃と義慈王の生母に関する考察」113-133 頁

・任小波(翻訳:河野剛彦)「763 年の吐蕃による長安陥落の再検討」134-145 頁

・聶順新(翻訳:吉田愛)「中唐長安における国忌行香制度の復原」146-163 頁

【国際シンポジウム開催－[長安と宇宙]・[長安と生物]】

リモートセンシングおよび馬骨に関わるこれまでの現地調査および中国側の現地調査の成果公表の場として、国際シンポジウム「陝西省考古発見の最前線」(*05)を開催し、鶴間・恵多谷・菊地が報告を行い、研究成果を発表した。

【特別展覧会『漢字展』の実施】

中国文字博物館の日本初巡回展『漢字展～中国古代文明の歴史を探る～』(*06)に学術面から協力した。漢字の起源やその形成・発展・変遷・伝播の軌跡について、本プロジェクトの主要テーマである「都市」と関連させた展示を行い、これまでの研究成果を一般に広く公開した。また、同展覧会において、東海大学情報技術センターと共同で驪山と始皇帝陵周辺の 4K 衛星 3 次元景観図を展示した。これには Landsat 画像・ALOS(だいち)画像・QuickBird の衛星画像を使用し、秦始皇帝陵付近の地形情報(等高線)は衛星 DEM(Digital Elevation Model)等をコンピュータ処理して、衛星データと重ね合わせて用いている。この 3 次元映像によって全方位から秦始皇帝陵を俯瞰、観察できる。また、中国リモートセンシングデータ活用の一環として、3D プリンタを用いて地形データの再現を試みた。

平成 27 年度

【現地調査－[長安と水環境]】

内陸にあった長安と比較する材料として、中国・長江流域にあり、古代における華南の都であった揚州・建康(南京)および石頭城(建康の西面を守る城塞)を、水環境の関係について考古学・歴史地理学の観点から踏査し、長江・運河と都市との関わりについて考察をし、併せて 2012 年 12 月に発見された隋煬帝墓も実見(*07)した。

【馬骨調査－[長安と生物]】

中国社会科学院考古研究所・陝西省考古研究院・殷墟遺跡を訪問し、馬骨の資料調査を行った。

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

【銅鏡調査－[長安と生産]】

学習院大学国際研究教育機構が所蔵する銅鏡の調査を行った。所蔵している銅鏡及び銅銭は 287 点。そのうち 172 点については、製作年代・直径・重量・文様による分類といった基礎的な調査を終えた。

【海外若手研究者の招聘－[学術交流]】

学習院大学国際研究教育機構の客員研究員として、以下の 4 名を招聘した。

・郭雪妮(中国・陝西師範大学文学院講師)

2016 年 1 月 7 日～2 月 29 日

・金康勲(韓国・亀尾荊谷中学校教師)

2016 年 1 月 10 日～2 月 9 日

・齊光(中国・復旦大学歴史地理研究中心副研究員)

2016 年 1 月 10 日～2 月 15 日

・肖愛玲(中国・陝西師範大学西北歴史環境与経済社会発展研究院副研究員)

2016 年 2 月 23 日～3 月 23 日

講演会(*08、*09)を開催し、その報告内容は翌年度(2017 年 2 月)に刊行した『学習院大学国際研究教育機構研究年報』第 3 号に掲載した。

・金康勲(翻訳:洪性珉)「遼東地域の高句麗復興運動と剣牟岑」115-132 頁

・郭雪妮「『松浦宮物語』における長安の景観」133-145 頁

・齊光「康熙年間の満文史料からみた西安周辺の気候・災害・農業・水利—清朝の帝国支配と自然環境—」146-163 頁

・肖愛玲(翻訳:堀井裕之)「前漢長安城における空間形成のメカニズム」164-185 頁

【国際シンポジウム「東アジア古代都市の馬と環境」開催－[長安と生物]】

国際シンポジウム「古代東アジア都市の馬と環境」(*10)を開催し、歴史学の分野から鶴間・村松・福島・吉田、馬骨の DNA 調査については菊地が報告を行い、これまでの研究成果を発表した。とりわけ、この国際シンポジウムでは、生物学の専門家や中央ユーラシアにおける遊牧文化の専門家にもコメンテーターを依頼し、文献史学と考古学からのアプローチによる報告に加え、生物学的見地からの視野を含めてテーマを論じることができた。質疑応答においても、長安周辺における記録上の馬について、また当時の馬の生態や、DNA に見られる数値について積極的な質問が寄せられ、文系・理系双方から、知識と理解を深める貴重な場となった。

【成果の発信】

鶴間が、NHK スペシャル『アジア巨大遺跡』第 3 集「中国 始皇帝陵と兵馬俑」(2015 年 11 月 7 日放映、*11)に出演し、本プロジェクトの研究成果を一般に広く紹介した。

平成 28 年度

【現地調査－[長安と宇宙]】

これまで積み重ねてきた研究により、始皇帝陵が秦帝国の領域拡大と連動しながら計画的に配置された建造物である可能性が最新の広域観測衛星データの画像解析から分かってきた。世界の古代都市や遺跡を見ても、方位を重視したグリッド(方格状)プランを採用して土地利用の区画割や建造物の配置が行われている事例が目立つが、秦帝国の空間的概念、当時の自然環境や建造物の配置を含めた国土の全体像を広域的視点で理解するために、帝国のグランドプランとの関連性が想定される南北軸線の北側の基準地点となる九原(秦の直道の北端、内モンゴル自治区包頭市)と、東西軸線の西側の基準地点となる「西門」(渭水・千河、陝西省隴県)周辺の遺跡調査とグランド・トゥルース(Ground Truth:リモートセンシングの地上検証調査)(*12)を行った。

【馬骨調査－[長安と生物]】

周公廟工作站(陝西省宝鸡市)で遺跡から多数出土した馬骨の調査を行い、中国国家博物館(北京市)でそれと関連する出土遺物を調査した。

【銅鏡調査－[長安と生産]】

学習院大学国際研究教育機構に所蔵する銅鏡の基礎的調査は概ね終わり、図録出版に向けて各鏡をさらに詳細に調べ、解説を付けていく段階に入った。その過程で、所蔵鏡には漢代に製作された鏡やその踏み返し鏡(同一の鋳型または原型を使用して後代に鋳造した鏡)が多く、中には官営工房

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

で造られたことを示す「尚方」との銘が見られる鏡もあることがわかった。「尚方」鏡は都の長安・洛陽で用いるために生産されたものと考えられ、所蔵鏡の成分分析結果を、実際に現地で出土した銅鏡と比較する必要性が高まった。

【青銅器調査－[長安と生産]】

明治・大正・昭和期に活躍した日本画家、木村武山(1876～1942)が膨大な中国美術のコレクションを蒐集し、彼の子孫が現在までそれを保管していることが近年わかった。武山は、1907 年に出席した『阿房劫火』で項羽に焼かれた秦都咸陽の光景を描き、高い評価を得た。東京美術学校を卒業後、岡倉天心に師事して北茨城で活動した時期に、中国とどのように関わっていたのか。大陸への従軍歴のない彼と中国の史跡に関する資料や美術品との接点を探る前段階として、その収蔵品のうち青銅器を中心に調査を行うこととなった。まず、中華人民共和国建国(1949 年)後の考古発掘で初めて世に知られたものと類似する越王勾踐剣、三星堆人頭像、そして秦兵馬俑と酷似した金属製の兵士俑・將軍俑について調べた。学内外の研究機関にも協力を要請し、蛍光 X 線分析と鉛同位体比の測定をそれぞれ東京文化財研究所保存科学研究センターと学習院大学理学部に依頼し、製作年代を探るうえで貴重な結果を得た。また、青銅器復元の経験を有する鋳金家の菓子満氏にも調査協力・鑑定を依頼した。

【海外若手研究者の招聘－学術交流】

学習院大学国際研究教育機構の客員研究員として、以下の4名を招聘した。新たに中国・南開大学から環境史を専門とする研究者を招聘し、古代都市とその周辺環境の関係について広く研究交流の場を持つことができた。

・**兪得順**(韓国・大邱外国語高等学校教師)

2017 年 1 月 3 日～1 月 30 日

・**夏炎**(中国・南開大学歴史学院副教授)

2017 年 1 月 10 日～1 月 23 日

・**費傑**(中国・復旦大学中国歴史地理研究所副教授)

2017 年 1 月 31 日～2 月 27 日

・**高昇栄**(中国・陝西師範大学西北歴史環境与経済社会発展研究院助理研究員)

2017 年 2 月 13 日～3 月 11 日

講演会(*13)・国際シンポジウム(後述、*14、*15)を開催し、その報告内容は翌年度(2018 年 2 月)に刊行した『学習院大学国際研究教育機構研究年報』第 4 号に掲載した。

・**兪得順**(翻訳:大沼巧)「歴史映画の特性と歴史教材の有用性検討」115-135 頁

・**夏炎**(翻訳:吉田愛)「文献資料の中の災害史—『泗州大水記』と貞元 8 年水害との異なる光景—」136-153 頁

・**費傑**(翻訳:齊会君)「環境の変遷と人類の活動を背景とする渭河平原における塩湖の退化と枯渇」154-181 頁

・**高昇栄**(翻訳:堀井裕之)「関中地区の農業用水制度の変遷と環境との関係」182-204 頁

【国際シンポジウム・講演会開催－[長安と水環境]ほか】

国際シンポジウムは 2 回、「中国古代の災害と環境」(*14)と「中国渭河流域の水利環境の変遷」(*15)というテーマで行った。「中国古代の災害と環境」では、中国の環境史の専門家である夏炎氏が、資料に残された災害に関する情報をどう読み解くか、また異例であるがゆえに資料に記されたはずの「地方官本人による災害対応」という行為が、「模範」としての意義を持って後世にも語り継がれていく過程について講演した。村松も漢代の事例を挙げ、当時の災害救済の変化を通して秦漢時代の環境認識について考察した。「中国渭河流域の水利環境の変遷」では、費傑氏が環境科学の観点から、干ばつ・冠水といった自然現象や人口・耕地面積といった人間による活動の指標をデータ化し、そうした要素が渭河平原の塩湖の変遷にどのような影響を与えたのかを報告した。また、高昇栄氏は、前漢から明清時代にかけての関中の灌漑用水制度について、各時代の権力機構や監督体制を整理しつつ論じた。また、鶴間が鄭国渠と成白渠の水利事業、村松が関中における灌漑と塩池という事例から、両報告に対してコメントした。

韓国・慶北大学校とは 連携特別講演会(*13)を開き、慶北大学校師範大学博士課程出身の兪得順氏が、「歴史映画」が歴史の授業の理解に有用な資料となりうるか、「歴史映画」の分析と、生徒たちへのアンケート結果をもとに考察し、実際に映画の一部を上映しながら報告した。コメンテーターには

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

李文基氏(韓国・慶北大学校師範大学歴史教育科教授)を迎え、出席した学部生を含め、活発な質疑応答が交わされた。

平成 29 年度

【現地調査－[長安と水環境]】

客員研究員として招聘した、水利史が専門の張青瑤氏(中国・陝西師範大学西北歴史環境与経済社会発展研究院助理研究員)と奈良・京都の水利施設を見学した。奈良では平城京とその周辺に点在する池、飛鳥では石材の運搬のために斉明天皇が造らせたと言われる運河、狂心渠(たぶれごころのみぞ)、京都では明治時代に造られた南禅寺の水路閣やインクラインほか、琵琶湖疏水と関連する遺跡・庭園を調査し、日本の古代から近代にいたる都市の水環境、日本と中国との差異について意見交換した。

【論文集の出版－[長安と生物]】

平成 27 年度に行った国際シンポジウム「古代東アジア都市の馬と環境」(*10)の報告の書籍化を前年度から目指してきたが、2017 年 6 月に「学習院大学研究成果刊行助成」に採択されたことにより、出版に向けて本格的に動き出した。本プロジェクトに参加する研究者のほか、シンポジウムでコメントを務めた生物学の専門家や中央ユーラシアにおける遊牧文化の専門家にも寄稿いただき、文系・理系の枠を越え、草原(ステップ)とは異なる、都市と近接した環境の中で、馬はどのように利用され、生産され、供給されたのか、それを基本的なテーマに据えた 15 本の論文を収録した『馬が語る古代東アジア世界史』(*16)を出版した。

【馬骨調査－[長安と生物]】

陝西省考古研究院(陝西省西安市)・山東省文物考古研究所(山東省済南市)にて、近隣の遺跡から出土した馬骨の調査を行い、中国社会科学院考古研究所(北京市)で DNA 分析に関する打ち合わせを行った。

【銅鏡調査－[長安と生産]】

『学習院大学蔵中国銅鏡図録——林コレクション——』(*17)の完成に向け、推敲を重ねた。銅鏡の寄贈に立ち会った久慈はコレクションの概要について著し、村松は古代中国の文字資料や図像を通して鏡がどのように用いられていたか考察した。銅鏡の蛍光 X 線分析を行った廣川は、分析結果をもとに図録に掲載した銅鏡 134 面の製作年代等について触れ、寄贈者の林裕己氏からは新出の方格規矩鏡の製作地に関する論考を寄稿いただいた。銅鏡の解説は、本プロジェクト所属の PD 共同研究員とリサーチアシスタントが分担して執筆した。

【青銅器調査－[長安と生産]】

木村武山と中国美術コレクションとの関係を探る活動は、学習院大学東洋文化研究所の一般研究プロジェクト(2017～2018 年度)に採択され、東洋文化研究所と合同で研究を進めることとなった。寺内正毅・寿一父子に関する資料整理を行う学習院大学史料館からの情報提供もあり、1930 年代の武山の動向を追った結果、大山巖の子で考古学者の大山柏や陸軍大臣だった寺内寿一との間に交流があったことがわかってきた。折しも中国では殷墟などが発見された中国考古発掘の草創期で、当時の日本人実業家による青銅器の購入・收藏の経緯と、武山のコレクション入手経路に重なる点はなかったかという疑問も浮かび上がった。

武山の故郷である茨城県笠間、彼が岡倉天心と共に活動した北茨城五浦、彼の作品を所蔵する茨城県天心記念五浦美術館・茨城大学五浦美術文化研究所・茨城県近代美術館には、前年度に第一次調査を行った(2016 年 12 月 9 日～10 日)が、武山と大山・寺内との接点という観点から武山関係者に再度聞き取り調査を行うため、水戸・五浦・笠間へ第二次調査に赴いた(2018 年 2 月 27 日～28 日)。

【海外若手研究者の招聘－学術交流】

本年度も復旦大学・陝西師範大学・慶北大学校の 3 校から 1 名ずつ、学習院大学国際研究教育機構の客員研究員として招聘した。本プロジェクト実施期間の 5 年間連続して 3 校から研究者を毎年招いて学術交流したことで、各研究機関との結びつきはより強固になったものと確信している。

・黄学超(中国・復旦大学中国歴史地理研究所講師)

2017 年 11 月 17 日～12 月 17 日

・洪性鳩(韓国・慶北大学校師範大学歴史教育科教授)

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

2018年1月9日～1月23日

・張青瑶(中国・陝西師範大学西北歴史環境与経済社会発展研究院助理研究員)

2018年2月18日～3月18日

【講演会開催－[長安と宇宙]・[長安と水環境]ほか】

学習院大学文学会との共催で、学習院大学文学部の客員研究員、段清波氏(中国・西北大学文化遺産学院院長/教授)の講演会(*18)を開いた。始皇帝が中国東方の地理環境に育まれた五行思想や蓋天説に触れ、その天円地方・水剋火といった宇宙観を、始皇帝陵の地下宮殿にある墓室の形状や、秦の水徳の象徴である水銀を流して河や海を象ったことに反映させたと、最新の考古発掘の成果を紹介しつつ報告した。

韓国・慶北大学校とは連携特別講演会(*19、*20)を2回開催した。洪性鳩氏は、韓国に所蔵されている清朝の満文文書24点を紹介した。外交文書のほか、祭祀の祭文、満洲語の翻訳官を選抜する科挙試験の答案など多岐にわたり、会場の清代史研究者たちからの質問により白熱した意見が交わされた。金知恩氏は、平成25年度の講演(*03)内容をさらに深め、朝鮮時代に慶尚道で形成された政治勢力の中心人物である柳致明に関連する門人録を整理し、複数比較することで、弟子たちへの学問的影響力のみならず、門人集団内の利害関係や対立の様相など実態に迫った。

水利関連の講演会(*21、*22)も2回行った。黄学超氏は、『水経注』から復原した漢唐間の昆明池における水利システムについて報告した。このテーマについては村松に専論があり、両者を中心に活発な議論が行われた。張青瑶氏は、清代の山西北部をモデルケースとし、年降水量が250～500mmと少なく自然からの影響を受けやすい農牧交錯地帯(半農半牧地域)では、土地開墾奨励政策や田賦制度の導入といった人為的要素が土地利用にどのような影響を与えたかについて発表した。

＜優れた成果が上がった点＞

様々な分野の研究者が研究を進めながら、ほぼ年に1回、研究成果のまとめとして国際シンポジウムを実施してきた。これらのシンポジウムは、本プロジェクトの年度ごとの研究成果の集大成としてだけでなく、海外から招聘した研究者による最新の研究成果が報告される場となった。シンポジウムには、学内・学外を問わず多くの研究者の参加があり、本プロジェクトの研究に対して建設的な意見をいただいた。

【長安と宇宙】

第1回「リモートセンシングデータを活用した東アジア古代史研究」(2013年11月16日、*02)は衛星写真等のリモートセンシングデータを中国古代史に如何に利用できるかについて、秦の始皇帝陵のフィールド研究およびGIS(地理情報システム)を活用した研究事例を報告した。このGISと歴史研究の関係は史学会第113回大会公開シンポジウム「歴史空間学の可能性」(東京大学、2015年11月14日)でも全体のテーマとなり、本研究のメンバーである村松・恵多谷が講演をおこなった。

【長安と生物】

第2回「陝西省考古発見の最前線」(2014年12月20日、*05)では、陝西省考古研究院との連携シンポジウムとして実施し、中国から招聘した曹龍氏・張偉氏が、最新の漢代の墓制研究および高陵楊官寨遺跡の発掘に関する情報を発表した。日本側からは馬骨のDNA研究の現状とともに秦の始皇帝陵の研究を発表した。

第3回「古代東アジア都市の馬と環境」(2016年1月23日、*10)は、中国史・日本史・朝鮮史および考古学の研究者が馬と人間・都市の関係性という環境史を扱った成果を発表した。その研究報告の内容を中心とした論文集は、2017年6月に「学習院大学研究成果刊行助成」に採択され、『馬が語る古代東アジア世界史』(*16)と題して2018年2月に刊行した。分子生物学や獣医学の専門家ら理系研究者の原稿も寄せられ、古代東アジアの農耕定住社会にも多く存在した馬と人間との関係性に、歴史学の立場からのみならず、文系・理系の枠を越えて多角的な視野からアプローチすることができた。

また、これまで歴史学に牽引されてきた中国養馬史研究においては、実際に遺跡から出土した馬骨の実践的な文理融合型の学際的分析を通じて、古典籍や出土文字資料には見られない中国古代王朝における馬匹生産体制の実態の一端を明らかにすることができた。特に、中国古代の中心地であった陝西省関中盆地における資料データを集積できたことは大変貴重であり、今後、他地域を分析するうえでの基軸となるはずである。

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

〔長安と水環境〕

第4回「中国古代の災害と環境」(2017年1月20日、*14)は、水害をはじめとする災害に人間がどのように対応したか、被災地である地方と中央との災害対応の差、救済方法の変化などについて、日中の環境史研究者がそれぞれ漢代・唐代の例を挙げて報告を行った。

第5回「中国渭河流域の水利環境の変遷」(2017年2月21日、*15)では、歴史地理学を専門とする中国の若手研究者2名を迎え、それぞれ塩湖の縮小・枯渇と農業用水制度という角度から、人間の活動と環境変化との関連について報告が行われた。長安は、渭河平原の中部にあり、北に渭河、西に灃水、東に滻河と灞河、そして南には秦嶺山脈が連なる場所に位置している。長安を取り巻く渭河流域の水利環境の各時代における様相を伝える両報告は、非常に示唆に富む内容だった。鶴間が秦漢時代の水利事業である鄭国渠と成白渠について、また村松が関中における灌漑と塩地についてコメントし、会場内の研究者も巻き込んで活発な議論が交わされた。

以上の点から、本プロジェクトが継続して開催してきた国際シンポジウムは、特に優れた研究成果の一つといえる。

〔長安と生産〕

学習院大学が所蔵する銅鏡の調査の成果を、『学習院大学蔵中国銅鏡図録——林コレクション——』(*17)にまとめることができた。蛍光 X 線による含有成分分析の調査は、青銅器研究の蓄積があり、測定機器が充実している泉屋博古館に依頼した。成分分析の結果、多くは漢代のもの、もしくは宋代(1000年前)に造った模倣品であることが判明し、これまで全容が明らかではなかった個人コレクションを一から整理し、情報を広く一般に公開することができた。今後、学外の研究者が資料を参照する際の便も考え、完成した図録は各大学・研究機関の図書館へ寄贈した。

また、秦都咸陽炎上の光景を『阿房劫火』に描いた木村武山が蒐集したという中国美術コレクションのうち、金属製の兵士俑・將軍俑を含む青銅器の成分分析を行い、武山の子孫や、武山の展覧会に関わった学芸員・研究者からの聞き取り調査を経て、大陸の美術品をどのように武山が入手したのか、その経緯を紐解くための諸資料を収集することができた。これと関連する中国考古学草創期の遺跡発掘の状況や、当時における出土品・伝世品の海外流出といった問題を扱うにあたり、日本近代史・中国近現代史の研究者とも研究ネットワークを構築できたことは、今後さらに研究を深めていく上で大きな糧となる。

＜課題となった点＞

本プロジェクトでは、復旦大学・陝西師範大学・慶北大学校といった中国・韓国の若手研究者を5年間継続的に招聘し、学術交流してきた。シンポジウムや講演会を通じ、新たな知見を得て、双方研究実績を蓄積することができた。しかし、プロジェクト終了に伴って主たる研究拠点がなくなり、こうした研究者同士の繋がりを今後どのように維持し、また活用していくかという点が課題として挙げられる。

また、銅鏡については、学内所蔵品の整理・調査が主体となり、その過程で都の長安・洛陽へ献上するために官営工房で製造されたと考えられる「尚方」銘の入った漢代の銅鏡を見いだすことはできたものの、同様の作例の他の銅鏡と、形状・文様・含有成分などの点から比較検討するまでには至らなかった。

馬骨の調査については、遺跡から出土する動物骨は、専門家が少ないことから整理が進んでいないことが多く、馬骨も同様の状況にある。そのため、馬骨の整理作業から始めなければならず、あまり分析点数を増やせなかった。今後、同時代遺跡データを増やして相互に検証することが課題である。

＜自己評価の実施結果と対応状況＞

研究拠点が置かれていた学習院大学国際研究教育機構の総会・運営委員会や学部長会議といった公式の機会のほかに、研究代表者をはじめとする学内の参加研究者を中心に PD 共同研究員・リサーチアシスタントも含めた話し合いの場を逐次設け、自己評価・進捗状況の確認を行った。

研究費の予算配分は、テーマグループのリーダーが学外の参加研究者の場合、メールで個別に協議することもあったが、基本的には上記のメンバーに事務方も交え、その前年度末までの研究の進捗状況に鑑みて行った。常に学習院の規定に準拠して予算処理を行い、国際研究教育機構、ならびに学習院財務課・人事課のチェックを受けた。

研究内容については、内輪よりも外部からの客観的意見・評価を受けて改善するよう心掛けた。

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

<外部(第三者)評価の実施結果と対応状況>

【研究内容に対する評価】

[長安と水環境]、[長安と生物]、[長安と生産]、[長安と宇宙]の各セクションともに学内・外部の研究會に参加し、その時々研究成果を報告して第三者からの批評を受けてきた。また、平成 25・26・27・28 年度と継続して国際シンポジウムを開催し、復旦大学・陝西師範大学・慶北大学から定期的に招聘した研究者たちや多くの参加者から客観的かつ建設的意見をいただいた。シンポジウムでは、外部の報告者・コメンテーターも招き、プロジェクトの内容に対するチェックも受けるよう努めた。

招聘した研究者には、本プロジェクトの国際シンポジウムが全て学習院大学で行われていることから、海外への発進力が弱いとの指摘を受け、国外共同研究機関でのシンポジウム開催を呼びかけられたが、実現にまで至らずプロジェクト期間が終了してしまったことは非常に残念である。

なお、開催したシンポジウムや講演会については、字幕付の動画を YOUTUBE にアップロードして公開しており、常に一般からの批評を受けることが可能となっている。

<https://www.youtube.com/channel/UCKdG-dA4ViGnsb10q2h9ZBw>

【研究費等の配分に対する評価】

学習院財務課・人事課でのチェックに加え、大学が外部監査を受けるため、学内外で二重三重の評価体制が構築されている。

<研究期間終了後の展望>

研究拠点となっていた学習院大学国際研究教育機構は 2018 年 4 月に改組され、本プロジェクトに参加していた主な研究者は全てこの拠点を離れることになった。そのため、学習院大学で後継のプロジェクトを起し、これまでの研究を引き続き行うことが難しくなった。

しかし、長安学で培ってきた研究の蓄積・考え方は、他大学に就職した者はその大学で、長年共同研究を行っている東海大学情報技術センターで、継続して研究員を招聘し学术交流してきた中国の復旦大学中国歴史地理研究所・陝西師範大学西北歴史環境与経済社会発展研究院、韓国の慶北大学校師範大学歴史教育研究科で波及していくであろう。

数年後に総集して再びこの「長安学」というテーマでシンポジウムを行うという展望を胸に、各自所属する場所で研鑽を積み重ねていきたい。

<研究成果の副次的効果>

平成 26 年度の進捗状況にも記したが、中国文字博物館の日本初巡回展『漢字展～中国古代文明の歴史を探る～』(*06)に学術面から協力した。漢字の起源やその形成・発展・変遷・伝播の軌跡について、本プロジェクトの主要テーマである「都市」と関連させた展示を行った。展示期間中にはプロジェクトに参加する研究者たちがそれぞれのテーマごとに講演を行ったり、東海大学情報技術センターと共同で驪山と始皇帝陵周辺の 4K 衛星 3 次元景観図といった最新の衛星画像技術を紹介したりすることができた。このように、漢字展開催に協力できたことは、研究成果を社会に還元するという見地から見て、大きな研究成果の副次的効果といえる。

また、平成 27 年度の国際シンポジウム「古代東アジア都市の馬と環境」(*10)において、NHK グローバルメディアサービスの協力を得て、講演内容のリアルタイムテキスト配信を試験的に行った。これによって、遠方にいるなどの理由からシンポジウムに出席できない人もリアルタイムで講演内容を知ることができ、配信された内容はアーカイブとして保存されるので後日に見直すことも可能である。今後の研究成果公表の新たな方法として期待できる。

馬骨調査については、実地での分析調査を進めたことで、現地研究員のみならず、関連分野の研究者とのネットワークが広がった。また、研究成果を国内外で発表したことで、これまで以上に他地域の研究者の関心度が高まり、情報が入手できるようになったことは、今後、課題を解決していくうえでの下地となった。

最後に、教育上の副次的効果について触れたい。国際研究教育機構では、大学の夏季休業期間

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

中に、海外短期研修プログラム「グローバル・キャンパス・アジア」を学部生・大学院生に対して実施している。研究者間ではこれまでも密な交流を続けてきた復旦大学・陝西師範大学・慶北大学校との「国際研究」で築いてきた信頼関係・人脈を、学部生レベルの交流や「国際教育」に活かすべく、上記3大学にも海外短期研修の拠点を置いた。さらに、研修中の学生に、平成27年度のグローバル・キャンパス・アジア上海(復旦大学)コースは 揚州・南京調査 (*07)、平成28年度のグローバル・キャンパス・アジア西安(陝西師範大学)コースは 「西門<汧水・千河、陝西省隴県>」調査 (*12)と、長安学プロジェクトの海外調査に参加させ、現地での遺跡踏査、中国人研究者との意見交換・交流の現場に立ち会ってもらった。参加した学生にはその後海外への長期留学や大学院進学した者もあり、彼らが「国際研究」に関心を持つ上で大きなきっかけを提供できたものと理解している。

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- | | | |
|------------------|------------------|----------------------|
| (1) <u>東アジア</u> | (2) <u>歴史地理学</u> | (3) <u>環境史</u> |
| (4) <u>水利灌漑</u> | (5) <u>宇宙考古学</u> | (6) <u>リモートセンシング</u> |
| (7) <u>DNA分析</u> | (8) <u>青銅器</u> | |

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

- [長安と水環境]
01. 郭世強・李令福「民国西安下水道建構与城市排水轉型研究」『干旱区資源与環境』2018(2)、100-106頁、2017年12月
 02. 井黒忍「近世・近代華北の水利権売買に関する一考察—山西・陝西・河南の事例に基づいて」『歴史科学』229、53-63頁、2017年5月
 03. 吉田愛「同州と西魏・北周の覇府」石見清裕 編著『ソグド人墓誌研究』汲古書院、25-30頁、2016年3月、査読無し
 04. 鶴間和幸「災害・環境から古代中国の戦争を読む」史学会 編『災害・環境から戦争を読む』史学会125周年リレーシンポジウム、山川出版社、103-124頁、2015年11月
 05. 井黒忍「井灌論の系譜：明清時代における井戸灌漑の理論と実践」大澤正昭・中林広一 編『春耕のとき—中国農業史研究からの出発』汲古書院、83-145頁、2015年9月
 06. 村松弘一「中国古代関中平原の水利開発と環境—鄭国渠から白渠へ」(*15)『史学』85(1-3)(文学部創設一二五年記念号第二分冊)、三田史学会(慶應義塾大学)、119-139頁、2015年7月
 07. 鐘江宏之「古代社会と運河の視点」鈴木靖民・川尻秋生・鐘江宏之 編『日本古代の運河と水上交通』25-42頁、2015年5月、査読無し
 08. 村松弘一「陝西省関中三渠をめぐる古代・近代そして現在」(*15)北川秀樹 編『中国乾燥地の環境と開発—自然、生業と環境保全』成文堂、2015年2月
 09. 村松弘一「淮河流域の水利技術与東亜区域史—以安徽省芍陂为中心」鈔曉鴻 編『海外中国水利史研究—日本学者論集』人民出版社、2015年1月
 10. 村松弘一「後漢時代の王景と芍陂(安豊塘)」大阪狭山市教育委員会 編『狭山池シンポジウム2012記録集 ため池築造と偉人』大阪狭山市教育委員会、2014年3月
 11. 郝鵬展・李令福「杜甫在唐代長安城南的居住環境」『陝西師範大学学报(哲学社会科学版)』2014(1)、123-127頁、2014年1月
 12. 村松弘一「ポスト退耕還林時代、黄土高原へのメッセージ：書評・松永光平著『中国の水土流失—史的展開と現代中国における転換点』」『東方』396、東方書店、2014年1月
 13. 村松弘一「黄土」岡本隆司 編『中国経済史』名古屋大学出版会、2013年11月
 14. 井黒忍「水利・治水」岡本隆司 編『中国経済史』名古屋大学出版会、35-37頁、2013年11月

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

[長安と生物]

15. 菊地大樹・覚張隆史・丸山真史「関中の馬と大和の馬」『学習院大学国際研究教育機構研究年報』4、学習院大学国際研究教育機構、70-88 頁、2018 年 2 月、査読無し
16. 菊地大樹「中国古代家畜馬再考」『駒澤考古』42、駒澤大学考古学研究室、11-32 頁、2017 年 9 月、査読無し
17. 菅野恵美「漢代黄河下流域の釣魚図と観漁図について」『関東学院大学人文学研究所所報』40、21-41 頁、2017 年 2 月、査読無し
18. 菊地大樹「秦王朝を駆けた馬」東京国立博物館 編『秦王朝と兵馬俑 - 発掘された歴史の実像 -』東京国立博物館、18-23 頁、2015 年 12 月、査読無し
19. 菊地大樹「帯金具の動物意匠」小田木治太郎 編『平成 24 年度～平成 26 年度科学研究費補助金(基盤研究 C)研究成果報告書 東アジア飾り帯文化の生成過程』天理大学、22-27 頁、2015 年 3 月、査読なし
20. 菊地大樹・覚張隆史・劉呆運「西周王朝の牧経営」『中国考古学』14、85-102 頁、2014 年 12 月、査読有り
21. 菊地大樹「骨から見た乃木号」『洗心』175、乃木神社崇敬会、19-21 頁、2014 年 7 月、査読無し
22. 菊地大樹「日本在来馬の源流をもとめてー中国古代を駆けた馬たち」『BIOSTORY』21、19-25 頁、2014 年 6 月、査読無し
23. 菊地大樹「馬牲の境界」飯島武次 編『中華文明の考古学』同成社、122-131 頁、2014 年 3 月、査読無し

[長安と生産]

24. 焦南峰・王望生・王書遜・劉澄宇・王敏「西安北郊棗園南嶺西漢墓発掘簡報」『考古与文物』2017(6)、17-33 頁、2017 年 12 月
25. 村松弘一「秦始皇帝の兵馬俑ー色彩豊かな秦の地下軍団」中国文化事典編集委員会 編『中国文化事典』丸善出版、414-415 頁、2017 年 4 月
26. 焦南峰・馬永羸・王東・楊武站・趙旭陽「陝西咸陽渭城区民生工程漢墓発掘簡報」『考古与文物』2017(2)、10-27 頁、2017 年 4 月
27. 鶴間和幸「秦の文字の統一の実態」阿辻哲次 監修『漢字三千年ー漢字の歴史と美ー』黄山美術社、2016 年 10 月、151-155 頁
28. 焦南峰・田亜岐・王保平・景宏偉・張志勤「雍城十四号秦公陵园钻探簡報」『考古与文物』2015(4)、3-8 頁、2015 年 8 月
29. 段清波「从秦始皇陵考古看中西文化交流(三)」『西北大学学报(哲学社会科学版)』2015(3)、8-13 頁、2015 年 5 月
30. 段清波「从秦始皇陵考古看中西文化交流(二)」『西北大学学报(哲学社会科学版)』2015(2)、8-14 頁、2015 年 3 月
31. 王志浩・小田木治太郎・廣川守・菊地大樹「对鄂尔多斯北方青銅文化時期金銀器的新認識」『草原文物』2015(1)、113-124 頁、2015 年 3 月、査読有り
32. 段清波「从秦始皇陵考古看中西文化交流(一)」『西北大学学报(哲学社会科学版)』2015(1)、8-15 頁、2015 年 1 月
33. 菊地大樹・小田木治太郎・廣川守・王志浩「北方青銅器文化の金銀器ーオールドス地域出土品の検討からー」『中国考古学』14、103-125 頁、2014 年 12 月、査読有り
34. 青木俊介「封検の形態発展ー平板検の使用方法的考察からー」靑山明・佐藤信 編『文献と遺物の境界Ⅱー中国出土簡牘史料の生態的研究ー』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、229-246 頁、2014 年 12 月、査読無し
35. 焦南峰「漢平帝康陵考古調査勘探簡報」『文物』2014(6)、50-63 頁、2014 年 9 月
36. 段清波「楚地出土的漆棺裝飾紋様試析」『文博』2014(3)、25-33 頁、2014 年 8 月
37. 青木俊介「里耶」中国出土資料学会 編『地下からの贈り物ー新出土資料が語るいにしへの中国』326-331 頁、2014 年 6 月、査読無し
38. 青木俊介「肩水金關漢簡の致と通関制度」『日本秦漢史研究』12、36-64 頁、2014 年 6 月、査読有

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

り

39. 青木俊介「里耶秦簡の『続食文書』について」『明大アジア史論集』18、14-35 頁、2014 年 3 月、査読無し

40. 段清波・于春雷「布紋瓦及在秦地の伝播—来自陝西早期長城沿線の観察」『考古与文物』2013(3)、57-61 頁、2013 年 6 月

【長安と宇宙】

41. 段清波「秦始皇陵所見帝国文明宇宙観」(*18)『西北大学学报(哲学社会科学版)』2018(2)、90-95 頁、2018 年 3 月

42. 惠多谷雅弘・鶴間和幸・村松弘一・福島 恵・中野良志・段宇「衛星リモートセンシングデータと歴史資料を用いた秦東門考察—『太平寰宇記』を中心に—」『学習院大学国際研究教育機構研究年報』4、学習院大学国際研究教育機構、89-112 頁、2018 年 2 月、査読無し

43. 黄曉芬「始皇帝の道」『海路:海からの視座で読み直す九州学』13、6-19 頁、2017 年 12 月

44. 段清波「漢長安城軸線変化与南向理念的確立—考古学上所見漢文化之一」『中原文化研究』2017(2)、25-33 頁、2017 年 4 月

45. 惠多谷雅弘・鶴間和幸・中野良志・村松弘一・小林次雄・吉田愛・福島恵「多衛星データを用いた秦帝国の空間的考察」(*12)『学習院大学国際研究教育機構研究年報』3、学習院大学国際研究教育機構、89-112 頁、2017 年 2 月、査読無し

46. 惠多谷雅弘・黄曉芬・阮文団・張得戦・岩下晋治・中野良志「古代都市遺跡調査における多衛星データの応用について」『日本考古学協会第 81 回総会研究要旨』220-221 頁、2015 年 5 月、査読無し

47. 鶴間和幸・惠多谷雅弘「“宇宙と地下からのメッセージ”—秦始皇帝とその自然環境—」『七隈史学』17、七隈史学会、1-21 頁、2015 年 3 月、査読無し

48. 鶴間和幸・惠多谷雅弘・中野良志・岩下晋治・小林次雄・村松弘一・黄曉芬・段清波・張衛星「衛星データを用いた秦始皇帝陵の陵園空間に関する一考察」(*01)『中国考古学』14、127-140 頁、2014 年 12 月、査読有り

49. 焦南峰「秦人の十个陵区」『文物』2014(6)、64-76 頁、2014 年 9 月

50. 惠多谷雅弘「宇宙から見つめる古代中国(その 2)」独立行政法人科学技術振興機構・中国総合研究交流センター 編『Science Portal China』2013 年 10 月、査読無し

51. 惠多谷雅弘「宇宙から見つめる古代中国(その 1)」独立行政法人科学技術振興機構・中国総合研究交流センター 編『Science Portal China』2013 年 10 月、査読無し

52. 段清波「咸陽『周陵』属性研究」『西北大学学报(哲学社会科学版)』43(3)、40-46 頁、2013 年 5 月

【東アジア比較研究】

53. 鐘江宏之「大宝建元とその背景」佐藤信 編『律令制と古代国家』吉川弘文館、106-123 頁、2018 年 3 月、査読無し

54. 福島恵「唐後半期における賜姓ソグド人—涼州武威安氏と賜姓—」『東洋史研究』76(4)、101-140 頁、2018 年 3 月、査読有り

55. 福島恵「国立国会図書館蔵『無慮山莊旧蔵拓本』」『学習院大学国際研究教育機構研究年報』4、学習院大学国際研究教育機構、47-68 頁、2018 年 2 月、査読有り

56. 張岩・張衛星「博物館的全球化思考—从世界三大博物館几个臨時展覽説起」『博物院』2017(6)、2017 年 12 月

57. 市来弘志「統万城と代来城の地理的關係から見る匈奴鉄弗部の活動範囲」『中国古代史研究 8 創立七十周年記念論文集』研文出版、2017 年 11 月

58. 青木俊介「漢代肩水地区 A32 所在機関とその業務関係—肩水金関と肩水東部を中心に—」高村武幸 編『周縁領域からみた秦漢帝国』六一書房、65-111 頁、2017 年 9 月、査読有り

59. 市来弘志「統万城」窪添慶文 編『魏晋南北朝史のいま』(『アジア遊学』213) 勉誠出版、2017 年 8 月

60. 鐘江宏之「地方官衙研究の歩みと課題」鈴木靖民・荒木敏夫・川尻秋生 編『日本古代の道路と景観』、査読なし、3-21 頁、2017 年 5 月

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

61. 村松弘一「学習院大学アジアコレクションの世界ーデジタル化のあとさき」『東洋文化研究』19、学習院大学東洋文化研究所、265-287 頁、2017 年 3 月、査読無し
62. 村松弘一「明治ー昭和前期、学習院の中国人留学生」『学習院大学国際研究教育機構研究年報』3、学習院大学国際研究教育機構、201-221 頁、2017 年 2 月、査読有り
63. 福島恵「絲綢之路青海道上的粟特人ー从看“康令憚墓誌”鄯州西平康氏一族ー」栄新江・羅豊主編『粟特人在中国:考古發現与出土文献的新印証』上、科学出版社、2016 年 6 月
64. 鐘江宏之「蝦夷社会と交流」鈴木拓也 編『東北の古代史 4 三十八年戦争と蝦夷政策の転換』132-157 頁、2016 年 6 月、査読無し
65. 菅野恵美「古代中国の統治と地域」大内憲昭・渡辺憲正 編『東アジアの政治と文化ー近代化・安全保障・相互交流史』明石書店、245-269 頁、2016 年 3 月、査読無し
66. 村松弘一「清末西安の教育と日本人教習ー足立喜六を事例に」『学習院大学国際研究教育機構研究年報』2、学習院大学国際研究教育機構、44-64 頁、2016 年 2 月
67. 劉艶・段清波「文化遺産価値体系研究」『西北大学学报(哲学社会科学版)』2016(1)、23-27 頁、2016 年 1 月
68. 市来弘志「從統万城和代来城的地理關係看匈奴鉄弗部的活動範圍」侯甬堅・邢福来・鄧輝・安介生・陳識仁 編『統万城建城一千六百年国際學術研討会文集』陝西師範大学出版総社、2015 年 12 月、査読有り
69. 鐘江宏之「江戸・東京の木簡の現状と近世木簡研究の課題」『木簡研究』37、193-208 頁、2015 年 11 月、査読有り
70. 鶴間和幸「秦始皇與孔子ー關於焚書坑儒的反省」『紀念方詩銘先生學術論文集 史林揮塵』上海古籍出版社、103-115 頁、2015 年 5 月
71. 黄曉芬・一瀬和夫・阮文団・張得戦・木下保明・丁麗玄・米田穰・鶴澤和宏・原田昌浩「ベトナム、ルイロウ古城・東墳墓群第 1 次発掘調査」『日本考古学協会第 81 回総会研究要旨』86-87 頁、2015 年 5 月、査読有り
72. 村松弘一「アジアを学ぶー近代学習院の教育ー人と人とのかわりからー」『学習院大学国際研究教育機構研究年報』1、学習院大学国際研究教育機構、40-50 頁、2015 年 2 月
73. 鶴間和幸「古代中近世東アジア世界における日中関係史」北岡伸一・歩平 編『「日中歴史共同研究」報告書』第 1 卷 古代・中近世史篇、勉誠出版、2014 年 10 月
74. 鐘江宏之「郡司と古代村落」大津透・桜井英治・藤井讓治・吉田裕・李成市 編『岩波講座日本歴史 3 古代 3』岩波書店、179-212 頁、2014 年 9 月、査読無し
75. 福島恵「長安・洛陽のソグド人」森部豊 編『アジア遊学:ソグド人と東ユーラシアの文化交渉』勉誠出版、140-160 頁、2014 年 8 月
76. 黄曉芬「中国から見た古墳時代像」一瀬和夫・福永伸哉・北條芳隆 編『古墳時代の考古学 9:21 世紀の古墳時代像』同成社、2014 年 6 月
77. 黄曉芬・阮文団・黎文戦・張得戦・丁麗玄・大賀克彦・中村大介「ベトナム北部 LUY LAU 古城と清姜・参亜漢墓群の調査成果」『日本考古学協会第 80 回総会研究要旨』84-85 頁、2014 年 5 月、査読有り
78. 焦南峰「西漢帝陵『夫人』葬制初探」『考古』2014(1)、77-83 頁、2014 年 4 月
79. 李令福「鄭州列入『中国八大古都』的原因過程及啓示」『中国古都研究』26、152-161 頁、2013 年 10 月
80. 福島恵「北朝隋唐期におけるソグド人の東方移住とその待遇ー新出墓誌史料を中心にー」『唐代史研究』16、6-37 頁、2013 年 8 月
81. 鐘江宏之「七道制」鈴木靖民・吉村武彦・加藤友康 編『古代山国の交通と社会』八木書店、23-33 頁、2013 年 6 月、査読無し

<図書>

01. 鶴間和幸・村松弘一・久慈大介 監修『学習院大学蔵中国銅鏡図録——林コレクション——』(* 17) 学習院大学国際研究教育機構、147 頁、2018 年 3 月
02. 村松弘一・貴志俊彦 共編『古写真・絵葉書でみる東アジアー日本人がみた 150 年の風景』勉誠出版、177 頁、2018 年 3 月

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

03. 鶴間和幸・村松弘一 共編『馬が語る古代東アジア世界史』(*10、*16)汲古書院、432 頁、2018 年 2 月
- 第一章 車の起源と発展 林俊雄
- 第二章 中国の四輪馬車 濱川栄
- 第三章 秦始皇帝陵出土銅車馬に見る馬の制御システム(講演録) 鶴間和幸
- 第四章 中国古代の馬の管理と漢代墓葬装飾 菅野恵美
- 第五章 「生きた礼器」としての馬
——般王朝後期における馬利用の本格的開始と「馬の道」—— 久慈大介
- 第六章 秦国の馬匹生産——考古科学からのアプローチ—— 菊地大樹・覚張隆史
- 第七章 秦漢時代関中平原・黄土高原の環境と馬
——漢代厩牧システムの形成と崩壊—— 村松弘一
- 第八章 漢代の関所における馬の通行規制とその実態
——肩水金関漢簡の分析から—— 青木俊介
- 第九章 新羅の馬と牧場(講演録) 李相勲
- 第十章 北朝後期の軍馬供給——洛陽遷都後の北魏から北齊期を中心に—— 吉田 愛
- 第十一章 唐前半期における馬の域外調達——宦官「劉元尚墓誌」を中心に—— 福島 恵
- 第十二章 唐代・日本古代の馬と交通制度——日唐厩牧令の比較から—— 河野保博
- 第十三章 唐代の朝貢品・回賜品に見る馬 河野剛彦
- 第十四章 南宋臨安における馬の利用 原瑠美
- 第十五章 ウマが持つ生物学的な特徴 川嶋舟
04. 黄曉芬・鶴間和幸 共編『東アジア古代都市のネットワークを探る——日・越・中の考古学最前線——』汲古書院、232 頁、2018 年 2 月
05. 鶴間和幸 編著『悪の歴史』東アジア編上、清水書院、331 頁、2017 年 9 月
06. 鶴間和幸 編著『春秋戦国時代合戦読本』宝島社、111 頁、2017 年 8 月
07. 村松弘一 『中国古代環境史の研究』(*07)汲古書院、512 頁、2016 年 2 月
08. NHK スペシャル「アジア巨大遺跡」取材班 編(鶴間和幸 共著)『NHK スペシャル アジア巨大遺跡』NHK 出版、175 頁、2016 年 1 月
09. 鶴間和幸 監修『秦の始皇帝と兵馬俑の謎』別冊宝島、111 頁、2015 年 11 月
10. 鶴間和幸 『人間・始皇帝』岩波書店、266 頁、2015 年 9 月
11. 鶴間和幸 監修『入門秦の始皇帝と兵馬俑』洋泉社 MOOK、111 頁、2015 年 8 月
12. 黄曉芬 編著『交趾郡治・ルイロウ遺跡 I』科研成果報告書、東亜大学、2015 年 3 月
13. 学習院大学国際研究教育機構 編(村松弘一 共著)『アジアを観る—学習院大学所蔵古写真・絵葉書・ガラス乾板』学習院大学、99 頁、2015 年 3 月
14. 段清波・徐衛民 編著『中国歴代長城発現与研究』科学出版社、496 頁、2014 年 11 月
15. 学習院大学・永青文庫・東洋文庫 編(村松弘一 共著)『東洋学の歩いた道』学習院大学、133 頁、2013 年 8 月
16. 井黒忍 『分水と支配—金・モンゴル時代華北の水利と農業』早稲田大学出版部、464 頁、2013 年 5 月

<学会発表>

[長安と水環境]

01. 鶴間和幸 「関中平原における水利事業～鄭国渠と成白渠」(*15)国際シンポジウム「中国渭河流域の水利環境の変遷」学習院大学、2017 年 2 月 21 日
02. 村松弘一 「関中における灌漑と塩地」(*15)国際シンポジウム「中国渭河流域の水利環境の変遷」学習院大学、2017 年 2 月 21 日

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

03. 村松弘一「漢代における災害救済の変化と環境」(*14)国際シンポジウム「中国古代の災害と環境」学習院大学、2017年1月20日
04. 井黒忍「水資源の分配・管理に見る前近代中国の国家・社会関係」大阪歴史科学協議会 3月例会、大阪歴史科学協議会、2016年3月5日
05. 村松弘一「秦漢時代水利史研究の新展開:『中国古代環境史の研究』・『前漢期黄河古河道の復元:リモートセンシングと歴史学』をめぐって」中国水利史研究会大会、大阪教育大学、2016年11月
06. 吉田愛「北朝後期の軍馬供給——北魏洛陽遷都後から北斉を中心に」国際シンポジウム「古代東アジア都市の馬と環境」(*10)学習院大学、2016年1月23日
07. 村松弘一「秦漢時代関中平原の環境と馬」(*10)国際シンポジウム「古代東アジア都市の馬と環境」学習院大学、2016年1月23日
08. 村松弘一「中国古代関中平原の歴史空間学—複合情報の統合化—」(*02)史学会第113回大会公開シンポジウム「歴史空間学の可能性」東京大学、2015年11月14日
09. 村松弘一 “Image of Loess Plateau in China: The environmental history of the Qin-Han Empire”, Association for East Asian Environmental History (AEAHE), Kagawa University, 2015年10月
10. 井黒忍「中国近世の水利をめぐる紛争と秩序—黄河中流域の事例に基づく水利組織の検討を中心に」洛北史学会第17回大会、京都府立大学、2015年6月
11. 井黒忍「前近代華北における水利権売買」関西農業史研究会第334回例会、大阪経済大学、2014年11月
12. 井黒忍「水権売買再考—華北の事例に基づいて」2014年度中国水利史研究会研究大会、兵庫教育大学、2014年11月
13. 井黒忍「前近代中国における水利権売買—華北の事例をもとに」第38回中国環境問題研究拠点研究会「中国半乾燥地域における水と人」総合地球環境学研究所、2014年10月

[長安と生物]

14. 菊地大樹「秦国の牧経営」日本中国考古学会 2017年度(第28回)大会、東京大学、2017年12月
15. 菊地大樹「苜蓿と馬匹生産」日本ウマ科学会第30回学術集会、東京都墨田区・KFC Hall & Rooms 国際ファッションセンター、2017年11月
16. 菊地大樹・曹龍・覚張隆史・耿慶剛「秦国養馬考」動物・植物与人—生物考古学術研討会、中国広東省広州市・中山大學、2017年11月
17. 市来弘志「隴西地区与長安——関中平原周圉農牧境界地帯考」『唐都学刊』漢唐研究暨第十一届西安历史文化国際学術研討会、中国西安・西安文理学院、2016年10月30日
18. KIKUCHI Hiroki, GAKUHARI Takashi, CAO Long, GENG Qinggang “Finding the roots of horse production system in the Qin State during the Warring States Period, China” 8th World Archaeological Congress, Doshisha University, 京都府京都市、2016年8月
19. 市来弘志「通過画像看魏晉時期酒泉与河西走廊の家畜和畜牧業」『考古与芸術 文本与歴史』絲綢之路研究新視野国際学術研討会、中国西安・陝西師範大學、2016年7月21日
20. KIKUCHI Hiroki “Evolution of Horse Production and Management System in Ancient China” 7th Worldwide Conference of the SEAA, Boston, USA, 2016年6月
21. 菊地大樹・覚張隆史・劉呆運・曹龍「中国古代における馬匹生産体制の動物考古学的研究—関中盆地を中心に—」日本文化財科学会第33回大会、奈良大學、2016年6月
22. 福島恵「唐前半期における馬の域外調達—宦官『劉元尚墓誌』を中心に—」(*10)国際シンポジウム「古代東アジア都市の馬と環境」学習院大学、2016年1月23日

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

23. 菊地大樹「秦國の馬匹生産」(*10) 国際シンポジウム「古代東アジア都市の馬と環境」学習院大学、2016年1月23日
24. 青木俊介「漢代の関所による馬の通行規制」(*10) 国際シンポジウム「古代東アジア都市の馬と環境」学習院大学、2016年1月23日
25. 菅野恵美「墓葬装飾から見る中国古代の馬」(*10) 国際シンポジウム「古代東アジア都市の馬と環境」学習院大学、2016年1月23日
26. 菊地大樹「中国古代馬的飼養和生産体制」中日考古学論壇、北京、2015年3月
27. 菊地大樹「中国古代王朝的養馬体制」2014年陝西省考古研究院業務工作總結會議、中国西安、2015年1月
28. 菊地大樹「中国古代王朝の馬匹生産」(*05) 国際シンポジウム「陝西省考古発見の最前線」学習院大学、2014年12月20日
29. 菊地大樹「中国古代を駆けた馬たち」山梨県立博物館平成26年度秋期企画展「甲斐の黒駒」記念講演会、山梨県笛吹市、2014年11月
30. 菊地大樹「關於二里頭文化家馬利用的可能性」紀念二里頭遺址發現55周年學術研討會、中国北京・中国社会科学院、2014年10月25日
31. MARUYAMA Masashi, KIKUCHI Hiroki “Early horse utilization in western Japan” 12th International Conference of Archaeozoology, Argentine, 2014年9月
32. KIKUCHI Hiroki, DAIYUN Liu “Horse production and management system in Zhou Dynasty, China” 12th International Conference of Archaeozoology, Argentine, 2014年9月
33. 市来弘志「農牧境界地帯としての隴西地域と長安」學術シンポジウム「古代長安と東アジア文化交流」中国西安・西北大学、2014年8月23日
34. KIKUCHI Hiroki “The Birth of the Horse Production System during the Zhou Dynasty, China” Sixth Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology, Mongolia, 2014年6月
35. 菊地大樹・劉呆運・米田穰・覺張隆史「中国西周王朝における馬飼養管理の実態」日本ウマ科学会第26回學術集會、東京、2013年12月
36. 菊地大樹・劉呆運・米田穰・覺張隆史「西周王朝の牧經營」第24回日本中国考古学会大会、東京、2013年12月
37. KIKUCHI Hiroki “Horse Sacrifice in Pre-Qin Age, China” Society for American Archaeology 78th Annual Meeting, Honolulu, 2013年4月

[長安と生産]

38. 村松弘一「『古写真』の書誌学の試み—足立喜六『長安史蹟の研究』からの発想」連続講座第43回「東アジア書誌学への招待」学習院大学、2017年12月
39. 鶴間和幸「秦始皇帝陵出土銅車馬に見る馬の制御システム」(*10) 国際シンポジウム「古代東アジア都市の馬と環境」学習院大学、2016年1月23日
40. 久慈大介「『中原』の誕生—洛陽盆地における初期王朝の成立—」(*08) 東アジア史特別講演会、学習院大学、2016年1月22日
41. 久慈大介「二里頭文化研究のこれまでの動向と今後の展望」日本中国考古学会2015年度大会、成城大学、2015年12月
42. 久慈大介「從陶器製作技術看二里頭文化—為闡明二里頭文化形成過程的基礎研究—」紀念二里頭遺址發現55周年學術研討會、中国北京・中国社会科学院、2014年10月25日
43. 黄曉芬「漢墓と漢帝国の影響」第27回浜田青陵賞記念シンポジウム「波濤をこえて—古代東アジアの交流史—」大阪岸和田市、2014年9月20日

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

[長安と宇宙]

44. 惠多谷雅弘・中野良志・鶴間和幸・村松弘一・福島恵・段宇「衛星リモートセンシングデータと歴史資料を用いた秦東門考察—『太平寰宇記』を中心に—」2017 年度東海大学情報技術センター研究・開発報告会、東海大学校友会館、2018 年 3 月 3 日
45. 惠多谷雅弘「宇宙考古学の最前線」日本西アジア考古学会シンポジウム「最新科学による西アジア文化遺産の調査と保護」早稲田大学、2017 年 11 月 18 日
46. 段清波「始皇帝陵の地下宮殿からみた宇宙観」(*18)学習院大学文学会・国際研究教育機構共催 学習院大学客員研究員講演会、学習院大学、2017 年 7 月 12 日
47. 惠多谷雅弘・中野良志・小林次雄・岩下晋治・鶴間和幸・村松弘一・吉田愛・福島恵「多衛星データを用いた秦帝国の空間的考察」(*12)2016 年度東海大学情報技術センター研究・開発報告会、東海大学校友会館、2017 年 2 月 25 日
48. 惠多谷雅弘・鶴間和幸・中野良志・岩下晋治・小林次雄・村松弘一・黄曉芬・段清波・張衛星「多衛星データを用いた秦始皇帝の陵園空間検討」(*01)日本リモートセンシング学会第 60 回学術講演会、日本大学生産工学部、2016 年 5 月 12 日～13 日。
49. 惠多谷雅弘「宇宙の眼でひらく考古学最前線」科学知総合研究所 SKIL 未来フォーラム5、東京大学弥生講堂一条ホール、2016 年 4 月 15 日
50. 村松弘一・鶴間和幸・惠多谷雅弘・中野良志・小林次雄・岩下晋治「宇宙考古学と歴史空間学—秦の始皇帝陵を事例として」2015 年度東海大学情報技術センター研究・開発報告会、東海大学、2016 年 2 月 13 日
51. 惠多谷雅弘「古代史研究における衛星リモートセンシングデータの可能性について」(*02)史学会第 113 回大会公開シンポジウム「歴史空間学の可能性」東京大学、2015 年 11 月 14 日
52. 黄曉芬 “A Comparison Between Ancient Roads of Eastern and Western Civilizations—Qin Straight Road vs Roman Road—”「東西文明における古代道路の比較研究—秦直道とローマ道—」国際シンポジウム「草原遊牧民族とシルクロード」モンゴル・ウランバートル市、2015 年 10 月 5 日～7 日
53. 鶴間和幸「漢武帝の時代の内政と外交」国際学術シンポジウム「東アジア古代都市のネットワークを探る 郡県都市研究の新展開」東京大学、2015 年 9 月 27 日
54. 黄曉芬「漢帝国南端の交趾郡を掘る」国際学術シンポジウム「東アジア古代都市のネットワークを探る—越・中の考古学最前線—」東京大学、2015 年 9 月 26 日～27 日
55. 惠多谷雅弘「衛星リモートセンシングデータを用いた古代都市遺跡調査」国際学術シンポジウム「東アジア古代都市のネットワークを探る—越・中の考古学最前線—」東京大学、2015 年 9 月 26 日～27 日
56. 鶴間和幸「中国文明とエジプト文明の比較」2014 年度東海大学情報技術センター研究・開発報告会、東海大学、2015 年 2 月 21 日
57. 惠多谷雅弘「宇宙考古学の新たな展開」(*05)国際シンポジウム「陝西省考古発見の最前線」学習院大学、2014 年 12 月 20 日
58. 鶴間和幸「始皇帝陵園区の空間構造」(*05)国際シンポジウム「陝西省考古発見の最前線」学習院大学、2014 年 12 月 20 日
59. 鶴間和幸「中国・エジプト両文明と古代陵墓」日本リモートセンシング学会第 57 回学術講演会講演、京都大学宇治おうばくプラザ、2014 年 11 月 7 日
60. 黄曉芬「地中海の葬制」陵墓考古学国際研究集会、中国西安・陝西省考古研究院、2014 年 8 月 21 日
61. 惠多谷雅弘「衛星データの考古学的応用事例について」陵墓考古学国際研究集会、中国西安・

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

陝西省考古研究院、2014年8月21日

62. 惠多谷雅弘・中野良志・小林次雄・岩下晋治・松前義昭「衛星データを用いた秦始皇帝陵の陵園空間に関する一考察」(*01)2013年度東海大学情報技術センター研究・開発報告会、東海大学、2014年2月22日

63. 鶴間和幸「始皇帝と東方世界」(*01)2013年度東海大学情報技術センター研究・開発報告会、東海大学、2014年2月22日

64. 惠多谷雅弘・鶴間和幸「衛星データを用いた秦始皇帝陵の陵園空間に関する一考察」(*01)日本中国考古学会2013年度大会、駒澤大学、2013年12月14日

65. 惠多谷雅弘「衛星リモートセンシングデータによる秦始皇帝陵の立地検討」(*02)国際シンポジウム「リモートセンシングデータを活用した東アジア古代史研究」学習院大学、2013年11月16日

66. 鶴間和幸「始皇帝陵と東方世界～大河・山川・海」(*02)国際シンポジウム「リモートセンシングデータを活用した東アジア古代史研究」学習院大学、2013年11月16日

[東アジア比較研究]

67. 福島恵「墓誌よりみたソグド人の東方活動」ユーラシア研究会、横浜ユーラシア文化館、2017年11月

68. 福島恵「シルクロードと謎の民ソグド人―出土資料から見る―」東京女子大学読史会、東京女子大学、2017年10月

69. 市来弘志「代来城地理位置再考」「長安記憶 絲路互通——第二届西安絲綢之路歴史文化国際学術研討会」中国西安・西安文理学院、2017年10月

70. 村松弘一「学習院大学アジアコレクションの世界―デジタル化のあとさき」学習院大学東洋文化研究所第90回東洋文化講座、学習院大学、2016年10月

71. 村松弘一「『天下三分の計』前夜 ―『三国志』を生んだ後漢時代の地域創生」大阪経済大学日本経済史研究所黒正塾第13回秋期学術講演会「新しい三国志研究」大阪経済大学、2015年11月

72. 福島恵「唐代景教徒の墓誌について―新出「花献墓誌」を中心に―」2015年度唐代史研究会夏期シンポジウム、早稲田大学、2015年8月18日

73. 鐘江宏之「地方官衙研究の歴史と現状」古代交通研究会、専修大学、2015年6月

74. 鐘江宏之「江戸・東京木簡研究の現状と課題」奈良文化財研究所、2014年12月

75. 黄曉芬「ベトナム北部・ルイロウ遺跡 2014年発掘調査の成果報告」日越考古学共同研究2014年成果発表会、ベトナムハノイ市・ベトナム国家歴史博物館、2014年12月30日

76. 黄曉芬「棺槨説」記念馬王堆漢墓発掘四十周年国際学術研討会、中国湖南・長沙市、2014年12月12日～14日

77. 黄曉芬「越南漢交趾郡城・漢墓群に関する調査と認識」漢代陵墓考古与漢文化国際学術研討会、中国徐州、2014年10月10日～13日、

78. 福島恵「絲綢之路青海道上的粟特人―从看“康令憚墓志”鄯州西平康氏一族―」第二届絲綢之路国際学術討論会「粟特人在中国:考古发现与出土文献的新印証」中国寧夏銀川柏悦酒店、2014年8月13日

79. 福島恵「シルクロード青海の道上のソグド人―『康令憚墓誌』を中心に―」第7回東アジア石刻研究会、明治大学、2014年7月26日

80. 菅野恵美「王莽期の祥瑞」第30回学習院大学史学会大会、学習院大学、2014年6月

81. 村松弘一「アジアを学ぶ―近代学習院の教育～人と人とのかわりから～」学習院大学史料館講座「東洋学の歩いた道」学習院創立百周年記念会館正堂、2013年10月

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等
 <既に実施しているもの>

シンポジウム (5回)

01. 国際シンポジウム「リモートセンシングデータを活用した東アジア古代史研究」

(於:学習院大学中央教育研究棟 3階 303教室、2013年11月16日、*02)

・孫涛(復旦大学中国歴史地理研究所教師)

「GISの歴史地理研究における応用——1855年の黄河下流の古道復元実践」

公開映像 URL: <https://youtu.be/NHorMDRid5Q>

・潘威(陝西師範大学西北歴史環境与経済社会発展研究院助理研究員)

「GISと中国史における水文変化の研究」

公開映像 URL: <https://youtu.be/dJOpbYB5sUQ>

・惠多谷雅弘(東海大学情報技術センター)

「衛星リモートセンシングデータによる秦始皇帝陵の立地検討」

・鶴間和幸(学習院大学文学部史学科教授)

「始皇帝陵と東方世界～大河・山川・海」

・《鼎談》鶴間和幸×惠多谷雅弘×村松弘一

「時空をこえるリモートセンシングデータの活用」

02. 国際シンポジウム「陝西省考古発見の最前線」

(於:学習院大学国際会議場、2014年12月20日、*05)

・曹龍(中国・陝西省考古研究院副研究員)

「西漢帝陵の陪葬制度」

公開映像 URL: <https://youtu.be/uWPQme4SDy4>

・張偉(中国・陝西省考古研究院助理研究員)

「高陵楊官寨遺跡の考古発見と収穫」

公開映像 URL: <https://youtu.be/A9UUlgkfk64>

・覚張隆史(日本学術振興会特別研究員・北里大学医学部研究員)

「ウマの骨化学分析による生態復元の新展開」

・菊地大樹(日本学術振興会特別研究員)

「中国古代王朝の馬匹生産」

・惠多谷雅弘(東海大学情報技術センター)

「宇宙考古学の新たな展開」

・鶴間和幸(学習院大学文学部教授)

「始皇帝陵園区の空間構造」

03. 国際シンポジウム「古代東アジア都市の馬と環境」

(於:学習院大学国際会議場、2016年1月23日、*10)

講演録(一部)テキストダウンロード URL: <https://livetext.jp/user/Channels?channel=CH000041>

・吉田愛(国際研究教育機構 PD 共同研究員)

「北朝後期の軍馬供給——北魏洛陽遷都後から北斉を中心に」

・河野剛彦(学習院大学国際研究教育機構 PD 共同研究員)

「唐代の朝貢品・回賜品に見る馬」

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

・河野保博(学習院大学東洋文化研究所客員研究員・鄭州大学アジア太平洋研究センター兼職研究員)

「日唐厩牧令の比較からみた日本古代の馬と交通」

・福島恵(早稲田大学教育・総合科学学術院 日本学術振興会特別研究員 RPD)

「唐前半期における馬の域外調達—宦官『劉元尚墓誌』を中心に—」

・原瑠美(学習院大学国際研究教育機構 PD 共同研究員)

「南宋臨安における馬の利用」

・鶴間和幸(学習院大学文学部教授)

「秦始皇帝陵出土銅車馬に見る馬の制御システム」

・李相勲(韓国・慶北大学校嶺南文化研究院研究教授)

「新羅の馬と牧場」

公開映像 URL: <https://youtu.be/V8GRAbUa35k>

・覚張隆史(金沢大学国際文化資源学研究中心 特任助教)

「遺跡出土馬における古代 DNA 分析の進展」

・菊地大樹(京都大学人文科学研究所日本学術振興会特別研究員 PD)

「秦國の馬匹生産」

・青木俊介(学習院大学国際研究教育機構 PD 共同研究員)

「漢代の関所による馬の通行規制」

・菅野恵美(関東学院大学准教授)

「墓葬装飾から見る中国古代の馬」

・村松弘一(学習院大学国際研究教育機構教授)

「秦漢時代関中平原の環境と馬」

04. 国際シンポジウム「中国古代の災害と環境」

(於: 学習院大学国際会議場、2017年1月20日、*14)

・夏炎(中国・南開大学歴史学院副教授)

「テキストの中の災害史—『泗州大水記』と貞元八年水害との異なる光景—」

・村松弘一(学習院大学国際研究教育機構教授)

「漢代における災害救済の変化と環境」

05. 国際シンポジウム「中国渭河流域の水利環境の変遷」

(於: 学習院大学国際会議場、2017年2月21日、*15)

・費傑(中国・復旦大学中国歴史地理研究所副教授)

「過去 2000 年間の渭河平原における塩湖の変遷」

・高昇榮(中国・陝西師範大学西北歴史環境与経済社会発展研究院助理研究員)

「関中地区の用水制度の変遷と環境との関係」

・鶴間和幸(学習院大学文学部教授)

「関中平原における水利事業～鄭国渠と成白渠」

・村松弘一(学習院大学国際研究教育機構教授)

「関中における灌漑と塩地」

講演会 (12 回)

01. 学習院大学・慶北大学校 連携特別講演会

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

(於:学習院大学国際会議場、2014年2月21日、*03)

- ・李相勲(韓国・慶北大学校師範大学講師)

「李成桂の威化島回軍」

公開映像 URL: <https://youtu.be/zKjAceFRxtU>

- ・金知恩(韓国・韓国放送通信大学講師)

「朝鮮後期嶺南南人の形成と発展」

公開映像 URL: <https://youtu.be/MJtQLx89YBk>

02. 海外若手研究者講演会

(於:学習院大学国際会議場、2014年4月10日)

- ・崎川隆(中国・吉林大学古籍研究所副教授)

「中国古代の複製技術-青銅器銘文鑄造技術の検討から-」

03. 学習院大学国際研究教育機構 特別講演会

(於:学習院大学国際会議場、2015年1月16日、*04)

- ・南廷昊(韓国・慶北大学校師範大学附設高等学校教師)

「百濟武王の王妃と義慈王の生母についての考察」

- ・任小波(中国・復旦大学中国歴史地理研究所専任講師)

「763年吐蕃による長安陥落の再検討」

- ・聶順新(中国・陝西師範大学西北歴史環境経済社会発展研究院助理研究員)

「国忌行香制度における唐代長安の寺観」

公開映像 URL: <https://youtu.be/3JNn65GGCU8>

04. 学習院大学国際研究教育機構 特別講演会

(於:学習院大学北1号館301教室、2015年11月27日)

- ・郭濤(中国・復旦大学歴史地理研究中心博士課程)

「秦代交通地理研究の新史料」

05. 東アジア史特別講演会

(於:学習院大学国際会議場、2016年1月22日、*08)

- ・久慈大介(学習院大学国際研究教育機構客員研究員)

「『中原』の誕生-洛陽盆地における初期王朝の成立-」

- ・金康勲(韓国・亀尾荊谷中学校教師)

「遼東地域の高句麗復興運動と剣牟岑」

公開映像 URL: <https://youtu.be/SvV5TZ1Faqs>

- ・郭雪妮(中国・陝西師範大学文学院講師)

「『松浦宮物語』における長安の景観」

- ・齊光(中国・復旦大学歴史地理研究中心副研究員)

「康熙年間の満文史料からみた西安周辺の気候・災害・農業・水利と清朝の帝国支配」

06. 学習院大学国際研究教育機構 特別講演会

(於:学習院大学国際会議場、2016年3月11日、*09)

- ・肖愛玲(中国・陝西師範大学西北歴史環境経済社会発展研究院副研究員)

「前漢長安城の空間形成について」

07. 学習院大学・慶北大学校 連携特別講演会

(於:学習院大学国際会議場、2017年1月18日、*13)

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

- ・兪得順(韓国・大邱外国語高等学校教師)
「歴史の授業に有用な資料としての歴史映画」
 - 08. 学習院大学文学会・国際研究教育機構共催 学習院大学客員研究員講演会
(於:学習院大学国際会議場、2017年7月12日、*18)
・段清波(中国・西北大学文化遺産学院院长/教授)
「始皇帝陵の地下宮殿からみた宇宙観」
 - 09. 学習院大学国際研究教育機構 特別講演会
(於:学習院大学国際会議場、2017年12月8日、*21)
・黄学超(中国・復旦大学中国歴史地理研究所講師)
「『水経注』に基づく漢唐間の昆明池における水利システムの復原」
 - 10. 学習院大学・慶北大学校 連携特別講演会
(於:学習院大学国際会議場、2018年1月12日、*19)
・洪性鳩(韓国・慶北大学校師範大学歴史教育科教授)
「韓国所蔵清朝(満文)文書紹介」
 - 11. 学習院大学・慶北大学校 連携特別講演会
(於:学習院大学国際会議場、2018年2月23日、*20)
・金知恩(韓国・慶北大学校師範大学歴史教育科助教)
「朝鮮後期門人録編纂の慣行と歴史研究への活用——19世紀嶺南南人柳致明の門人録を中心に——」
 - 12. 学習院大学国際研究教育機構 特別講演会
(於:学習院大学国際会議場、2018年3月13日、*22)
・張青瑤(中国・陝西師範大学西北歴史環境と経済社会発展研究院助理研究員)
「清代山西北部地区の土地利用の変化と原動力の分析」
- <これから実施する予定のもの>
なし

14 その他の研究成果等

- 01. 福島恵「墓誌より見たソグド人の東方活動」『横浜ユーラシア文化館紀要』6(研究会報告)、2018年3月刊行予定
- 02. 福島恵「シルクロードと謎の民ソグド人—出土資料から見る—」『史論』71(読史会便り)、40-48頁、2018年3月
- 03. 菅野恵美「道教的視点から漢墓とその画像を読み解く『漢帝國的遺産:漢鬼考』」『東方』440、26-34頁、2017年10月
- 04. 青木俊介「里耶秦簡 J1⑧1590 の綴合に関する疑義」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所『中国古代簡牘の横断領域的研究』HP、2017年8月
[http://www.aa.tufs.ac.jp/users/Ejina/note/note24\(Aoki\).html](http://www.aa.tufs.ac.jp/users/Ejina/note/note24(Aoki).html)
- 05. 恵多谷雅弘・鶴間和幸「宇宙考古学が拓く歴史発見—衛星でピラミッド・始皇帝陵解析」『日刊工業新聞』2017年8月17日
- 06. 青木俊介「岳麓秦簡「興律」の開封者通知に関する規定」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所『中国古代簡牘の横断領域的研究』HP、2017年3月
[http://www.aa.tufs.ac.jp/users/Ejina/note/note23\(Aoki\).html](http://www.aa.tufs.ac.jp/users/Ejina/note/note23(Aoki).html)

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

08. 鐘江宏之「氏族の伝統を背負う家持」高志の国文学館 編『官人 大伴家持』桂書房、26-35 頁、2017 年 3 月
09. 青木俊介「里耶秦簡 J1⑧1517 の作成過程と「某手」の示すもの」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所『中国古代簡牘の横断領域的研究』HP、2017 年 2 月
[http://www.aa.tufs.ac.jp/users/Ejina/note/note22\(Aoki\).html](http://www.aa.tufs.ac.jp/users/Ejina/note/note22(Aoki).html)
10. 青木俊介「書評：鷹取祐司著『秦漢官文書の基礎的研究』」『東洋史研究』75(3)、583-597 頁、2016 年 12 月
11. **NHK スペシャル『アジア巨大遺跡』第 3 集「中国 始皇帝陵と兵馬俑」**
 (2015 年 11 月 7 日午後 9 時 00 分放映・50 分、*11) 鶴間和幸 出演
12. 菅野恵美「**中国揚州に発見された隋の煬帝の墓**」(*07) 関東学院大学『国際文化学部教員コラム vol.141』HP、2015 年 10 月 2 日
<http://kokusai.kanto-gakuin.ac.jp/column/column-1655/>
13. 鐘江宏之(分担執筆)、五味文彦・杉森哲也 編『日本史史料論(放送大学大学院教材)』放送大学教育振興会、11-102 頁、2015 年 3 月
14. 青木俊介「洞庭郡治小考」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所『中国古代簡牘の横断領域的研究』HP、2014 年
[http://www.aa.tufs.ac.jp/users/Ejina/note/note10\(Aoki\).html](http://www.aa.tufs.ac.jp/users/Ejina/note/note10(Aoki).html)
15. 中国文字博物館 巡回展『**漢字展～中国古代文明の歴史を探る～**』
 (於:東京中国文化センター、会期:2014 年 7 月 15 日～7 月 25 日、*06) 関連講演
 7 月 15 日 鶴間和幸 「東アジアにおける漢字文明」
 7 月 16 日 久慈大介 「漢字の考古学—中国文明における漢字の誕生とその起源—」
 7 月 17 日 青木俊介 「中国の木簡」
 7 月 18 日 村松弘一 「中国古代文明と漢の長安城」
 7 月 22 日 菅野恵美 「音が導く漢字の変化—甲骨文字から簡体字まで—」
 7 月 24 日 福島 恵 「墓誌史料とソグド人」
16. 菊地大樹「骨から見た乃木号」『学習院大学史料館ミュージアム・レター』25、学習院大学史料館、8 頁、2014 年 4 月

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

該当なし

<「選定時」に付された留意事項への対応>

<「中間評価時」に付された留意事項>

該当なし

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

16

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他()	
平成25年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	11,696	6,449	5,247				
平成26年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	11,892	7,222	4,670				
平成27年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	11,845	7,008	4,837				
平成28年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	16,892	13,216	3,676				
平成29年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	11,347	8,096	3,251				
総額	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	0	0	0	0	0	0	0
	研究費	63,672	41,991	21,681	0	0	0	0
総計	63,672	41,991	21,681	0	0	0	0	

17 《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。) (千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

_____ m²

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。) (千円)

装置・設備の名称	整備年度	型 番	台 数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h			
				h			
				h			
				h			
(研究設備)				h			
				h			
				h			
(情報処理関係設備)				h			
				h			
				h			
				h			

18 研究費の支出状況 (千円)

年 度	平成 25 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	2,882	パソコン関連費・文具費	2,882
光 熱 水 費	0		
通 信 運 搬 費	43	郵便費・運搬費・通信費	43
印 刷 製 本 費	93	印刷費	93
旅 費 交 通 費	1,600	研究調査旅費	1,600
報 酬 ・ 委 託 料	1,223	報酬・謝礼	1,223
(その他教研費)	2,132	招聘旅費・衛星写真使用料	2,132
計	7,973		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	785	アルバイト人件費	65
			時給900円、年間時間数59.5時間(1人) 時給950円、年間時間数11.5時間(1人)
教育研究経費支出			
計	785		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	1,988		1,988
図 書			
計	1,988		
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	719		719
			学外3人
ポスト・ドクター	950		950
			学内1人

		法人番号	131008
研究支援推進経費		0	
計	1,669		学内1人

年 度	平成 26 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	778	文具費・パソコン関連費	778
光 熱 水 費	170		170
通 信 運 搬 費	56	運搬費	56
印 刷 製 本 費	309	印刷費	309
旅 費 交 通 費	1,440	研究調査旅費	1,440
報 酬 ・ 委 託 料	1,454	報酬謝礼・委託費	1,454
(その他教研費)	2,025	招聘旅費	2,025
計	6,232		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出			時給900円、年間時間数251時間(1人)
(兼務職員)	574		時給950円、年間時間数52.5時間(1人)
教育研究経費支出			実人数2人
計	574	574	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品			
図 書			
計	0		
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント			学外1人
ポスト・ドクター	5,086		学内3人
研究支援推進経費			
計	5,086		学内3人

年 度	平成 27 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	768	文房具・パソコン関連費	768
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	30	郵便費	30
印 刷 製 本 費	35	印刷費	35
旅 費 交 通 費	1,564	現地調査旅費	1,564
報 酬 ・ 委 託 料	1,801	報酬謝礼・委託費	1,801
(その他教研費)	1,028	招聘旅費	1,028
計	5,226		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出			
(兼務職員)	336	アルバイト人件費	336
教育研究経費支出			時給910円2人
計	336		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品			
図 書			
計	0		
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	543		543
ポスト・ドクター	5,740		5,740
研究支援推進経費			
計	6,283		学内3人、学外1人

年 度	平成 28 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
主 な 内 容			

		法人番号		131008	
教 育 研 究 経 費 支 出					
消耗品費	238	文具費	238	消耗品	消耗図書
光熱水費	0				
通信運搬費	107	郵便費	107	招聘文書発送	文物の運搬
印刷製本費	278	印刷費	278	資料コピー代	イベントチラシ印刷 研究収録カラーページ印刷
旅費交通費	430	研究調査旅費	430	国内外調査旅行	
報酬・委託料	794	報酬・委託料	794	講演謝礼	招聘客員研究協力謝礼
(その他教研費)	690	招聘旅費	690	招聘客員着任航空券代、会議費用	
計	2,537				
ア ル バ イ ト 関 係 支 出					
人件費支出		アルバイト人件費			
(兼務職員)	9		9	時給910円、950円	年間時間数10時間(1人)
教育研究経費支出					
計	9		9		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)					
教育研究用機器備品					
図 書					
計	0				
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出					
リサーチ・アシスタント	821		821	学内1人	
ポスト・ドクター	5,784		5,784	3人	
研究支援推進経費					
計	6,605				

年 度	平成 29 年度				
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳			
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容	
教 育 研 究 経 費 支 出					
消耗品費	1,012	文房具代・パソコン関連費	1,012	事務用品、パソコン関連消耗品	
光熱水費	0				
通信運搬費	162	郵便費・運搬費	162	イベント案内送料	
印刷製本費	696	印刷費	696	資料コピー代	銅鏡図録の印刷 年報抜刷
旅費交通費	513	研究調査旅費	513	現地調査旅費	
報酬・委託料	833	報酬謝礼・委託費	833	研究報告書翻訳謝礼	
(その他教研費)	716	招聘旅費	716	学外者現地調査旅費、捷夫丙客員等旅費滞在費等	
計	3,932				
ア ル バ イ ト 関 係 支 出					
人件費支出					
(兼務職員)					
教育研究経費支出					
計	0				
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)					
教育研究用機器備品					
図 書					
計	0				
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出					
リサーチ・アシスタント	1,559		1,559	学内1人、学外3人	
ポスト・ドクター	5,847		5,847	3人	
研究支援推進経費					
計	7,406			4人	